

ルールの改正点とその取扱いについて

令和8年度より下記の二点に関してルールの取扱いが変更となります。
関東大会の地区予選から適用していきますので、各校でご承知おきください。

[トスプレーにおけるダブルコンタクトについて]

チームの2回目のヒットが指を使ったオーバーハンドパスで行われ、自チームの空間内にボールが飛んだ場合は、手の中で連続して接触してもダブルコンタクトの反則にならない。

アタックヒットが完了（ボールがネットの垂直面を完全に通過するか、相手ブロックに接触）したときは、ダブルコンタクトの反則になる。

【解説】

・大事なことは次の三点です。

- ① チームの何回目のプレー（ヒット）か
- ② そのプレー後、ボールはどうなったか
- ③ それ以外に反則があったか

それぞれについて触れていきます。

①従来どおり、チームの1回目のプレーに関しては1つの動作中であればダブルコンタクトにはなりません。

②チームの2回目のプレーに対しダブルコンタクトが緩和されますが、相手コートへ送るプレーとみなされた場合、ダブルコンタクトが成立します。

<相手コートに送るプレーと判断する基準>

相手コートへ送るプレーと判断される基準は以下のどちらかが成立した場合です。

(ア) 相手コートへ完全に入る（ネットの垂直面を完全に通過する）

(イ) 相手ブロックに触れる

このいずれかの場合、ダブルコンタクトとして反則を適用してください。

③チームの2回目のプレーがダブルコンタクトであり、ボールがネット垂直面を通過する、あるいは相手ブロッカーに触れる前に、相手チームがタッチネットなどの別の反則をした場合は、その反則が優先されます。

- ・もし、これまでどおりダブルコンタクトとしてホイッスル（吹笛）してしまった場合は、ノーカウントとしてラリーをやり直してください。
- ・オーバーハンドパスをしたボールが、そのプレーヤーの手から滑り身体の他の部位にあたった場合（1つの動作中とはならない場合）は、ダブルコンタクトの反則になります。
- ・相手ブロッカーの反則には「オーバーネット」もあります。例えば、アタッカーがプレーする前や、相手コートに届かないボールにブロッカーが触れると、オーバーネットの反則となります。チームの2回目のプレーがダブルコンタクトであり、相手ブロッカーに触れるとダブルコンタクトの反則が成立しますが、今までどおり、ブロッカーが触れてもよいボールかどうか判断してください。

[レシービングチームにおけるポジションについて]

レシービングチームのポジションの反則が成立するのは、サーバーがトスをした瞬間である。トスをする瞬間までに、コート内に位置していなかったり、ポジションが完全に入れ替わったりしたケースは反則となる。

もし、レシービングチームにポジションの反則が起きたときは、サービスヒットの瞬間にホイッスルする。

【解説】

- ・従来の「サービスヒットした瞬間」からレシービングチームの移動が認められるのに対し、「サーバーがトスをした瞬間」に移動が認められるようになりました。この背景には「完全に入れ替わった場合のみ反則とする」考えがあります。セカンドレフェリーを務める際にはポジションを意識し、サーバーがトスをした瞬間に反則であるか判断してください。セカンドレフェリーは、サーバーとレシービングチームのポジションを視野に入れるために、支柱から少し離れて判定をすると良いと思います。ただし、ホイッスルをするタイミングはサービスヒットの瞬間になります。
- ・ホイッスルをするタイミングが遅い理由があります。サーバーがローテーションの順を間違える、サービスの反則（ディレイインサービスなど）をした場合、サービスを行うチームの反則が優先されます。したがって、ホイッスルをするタイミングはサービスヒットのときになります。

例1) レシービングチームがサーバーのトス前にポジションが入れ替わっている

→ サーバーがフットフォルトをした

⇒ サービスの反則

☆この場合、サービスヒットの瞬間にファーストレフェリー、セカンドレフェリー共にホイッスルをすると思います。お互いにどの反則を適用したか確認をし、最終的な判定をファーストレフェリーが決めてください。（この場合はサービスチームの負けです）

例2) レシービングチームがサーバーのトス前にポジションが入れ替わっている

→ サーバーが8秒経過してもサーブを打たない

⇒ サービスの反則

☆この場合、セカンドレフェリーがホイッスルをする前にファーストレフェリーがホイッスルをします。（まだサービスヒットをしていないため）